

## さっぽろ夏まつり - 夏まつりの歴史

さっぽろ夏まつりは、7月中旬から8月中旬にかけて札幌全体で1ヶ月間開催されます。さっぽろ夏まつりの最初から変わらず受け継がれているのは、チャリティーの精神です。ひとり親家庭や障がい者福祉団体など、児童福祉を専門とする福祉団体に毎年数百万円を寄付しています。

さっぽろ夏まつりは、七夕星まつり、花火大会、こども相撲大会、ボート祭り、盆踊り、ほたる狩りなど22のイベントを集めて1954年に始まりました。このようなイベントは豊平川をはじめ市内各地で行われていました。

1957年には大通公園がメイン会場となり、そこで開催されるビアガーデンが今の祭りの目玉となっています。札幌のビールの歴史は1876年にさかのぼります。札幌には、日本最大のビール会社2社が経営する醸造所と、国内で唯一のビール博物館があります。

1972年に札幌市はドイツのミュンヘン（もう1つのビールの首都）と姉妹都市関係を確立したことで、さっぽろ夏まつりは国際色豊かになりました。札幌ドイツ村では、オクトーバーフェストの精神に基づいて、ドイツのビールやあらゆる種類のドイツのパブ料理を提供しています。世界のビール広場では、他の国のビールも楽しめます。一方、国内の大手醸造所4社は、大通公園のそれぞれの会場でビールとビールに合う料理を提供します。

また、大通公園では、さっぽろ夏まつりのもうひとつのイベントである北海盆踊りが8月中旬に開催されます。夕方には、さっぽろテレビ塔近くの2丁目に特別に建てられたやぐらを踊り手が取り囲みます。

もう一つの重要なイベントは、8月の最初の週末に開催されるすすきの祭りです。すすきの大通公園の南端に隣接しており、メインイベントはパレードやダンスパフォーマンスです。